



# ハーモニー



## 6月は「心のきずなを深める月間」

令和4年度がスタートして2ヶ月が経ちました。新しい学年や学級に慣れてきた人もいれば、そうでない人もいます。学校は社会生活でのルールを学ぶ場所、相手との良好な関係づくりを学ぶ場所とも言われています。体育大会を通してきずなを深めましたが、1・2年生はクラスを解体して3団に分けて行いましたので、これからの学校生活でクラスのきずなが深まり、それが広がって学年のきずな、学校のきずなが深まることを期待します。

### 学校での取組

- ・生徒会主催の交流を図る集会の実施
- ・奉仕活動・勤労体験活動等の実施
- ・教育相談の充実
- ・部活動のキャプテン会議の実施
- ・道徳、特別活動の充実
- ・いじめに関する校内研修の充実

### 家庭での取組例

- ・家族の触れ合いの中で子どもの心の把握
- ・親子で感動を共感できる活動  
(自然体験、スポーツ、読書等)
- ・子どもの自尊感情を高める日常の言葉かけ
- ・「くまもと家庭教育10か条」の活用
- ・「くまもと携帯電話・スマホの利用5か条」の活用

6月の主な行事をお知らせします。

- 6月5～6日(日.月)：1年生集団宿泊
- 6月6日(月)：3年生学力テスト
- 6月9日(水)：耳鼻科検診、学校運営協議会
- 6月13日(月)：生徒総会
- 6月14日(火)：眼科検診
- 6月22日(水)：歯科検診
- 6月25.26日(土.日)：郡市中体連夏季大会

※6月は健康に関する検診が数多くあります。病院から来られて診察されますので準備をよろしくお願いします。また、部活動に入っている人は中体連の夏季大会が月末にありますので、こちらも新型コロナ感染拡大防止対策をしながら健康維持と競技力の向上を目指してください。

また、ここには載せていませんが、先生たちの研究授業もあります。

## フラワープロジェクトを広げよう



生徒会が去年から取り組んでいる「フラワープロジェクト」ですが、今年もいろいろな場所で花を咲かせています。左の写真は新阿蘇大橋の新阿蘇大橋展望所「ヨ・ミュール」に置いているプランターです。現在、担当の先生や生徒を中心に準備を進めていますが、6月13日の生徒総会后から具体的に全体にも提案をして進めることとなります。保護者の皆様や、地域の皆様の協力を得てさらに広がることを期待しています。

## 人権作文を紹介します

全国中学生人権作文コンテスト入賞作品集が学校に届きました。本校でもこれから作文集・絵画・詩等の募集が始まります。自分の気持ちを表すチャンスです。全国の中学生の思いを裏面に紹介します。「自分がもし、このクラスにいたら、どうしただろう?」と考えました。



# 「ありがとう」

法務大臣政務官賞

静岡県・浜松市立北部中学校三年

小木曾 莉桜(こぎそ りお)さん

「りおちゃんの言葉は私の薬」、私はこの言葉に大きな衝撃を受けた。

中学一年生の頃、クラスに「一型糖尿病」をもつ女の子がいた。彼女は食後必ず注射を自らの手で打つ。そして、血糖値が高すぎたり低すぎた際にはまた別の注射を打つ。毎日それをくり返していた。「打たなければ死ぬ」という恐怖、注射の痛み、当事者になってみなければわからないことだが、「辛く苦しいこと」だというのは私にもわかる。

入学し、彼女が自分の病気について明かしてから何日かたったある日、「なんであんな奴、俺らの学校に来たんだよ。」そう、一人の男子が言ったのだ。その一言をきっかけに彼女は周りから以前とは違う目で見られるようになった。そしていじめへと発展した。

「病気をもっているから私達とは違うという勝手な偏見や差別、このようなことはあってはならない。」私はそう思った。でもそれを言えなかった。怖いから、いじめられるのが……。もし、自分にいじめのまがが変わったらどうしよう、と自分のことだけを考えていたのだ。結局、私がやっていたのは見て見ぬふりで、いじている人たちと何も変わらない。

私たちが彼女を見る目は悲しくなるほど冷たいものだった。私たちのその目や、ひとつひとつの小さな言葉がどれだけ彼女の心を傷つけたことだろう。それから彼女は学校を休む日が多くなった。「今日もいねえじゃん、ラッキー。」「〇〇？誰それ？そんな奴いたっけ。」まだそんなことを言っているの？とはやはり言いたくても言えなかった。

ある日、彼女が過呼吸になっていた、私は、「大丈夫？」と声を掛けた。言おうと思って出た言葉ではない。無意識でとっさに出た言葉だった。「ありがとう」そう返って来た。“ありがとう”の言葉を聞いて今まで自分がしていたことを心底後悔した。「大丈夫？」という一言が傷ついた彼女の心を癒やしたのだと思う。“ありがとう”この一言で、私は「変わろう」と思った。だから私は声を掛け続けていこうと決めた。

私が彼女を手伝っているのを見て、文句や悪口を言う人はたくさんいた。しかしその分「私にもできることある？」と私の味方をしてくれる人たちもいた。怖くて言い出せずにいた人は私以外にも大勢いたのだ。私が少し変わったことで周りにいる人たちも大きく変わった。人は変わると改めて思った。

たくさんの人が彼女と話すようになり彼女は元通り学校に来るようになった。本当に嬉しくて変わって良かったと思えた。一年生終了と同時に私は引っ越すことになり、皆が私に手紙をくれた。ひとりひとりの手紙を読んでいくと、彼女からの手紙を見つけた。ぎっしりと文字がつまみついていて、私へのお礼の文がそこにはつづられていた。そして最後の一文に「りおちゃんの言葉は私の薬でした」とあった。言葉にはそれほどの力があるのだと確信した。

私一人では、彼女へのいじめを止めることはできない。いじめは、いじめる人が変わらなければ終わらないと思う。でも、私一人でも彼女を助けることはできる。それは、一言かけるだけ。たった小さな一言でも、彼女にとってはとても大きいもので彼女の心を支えることができる。

はじめに一人変わることで周りも変わり、その周りも変わる。私はそのはじめの一人になりたい。そして、皆の心の支えとなる存在になりたい。これは私の夢だ。自分自身を変えるとことというのはいじめ減らすために私ができる最善のことだと思う。自分を変えるということはとても難しいことだけど夢を叶えるために私は実行してみせる。私は彼女に出会えたことにとっても感謝している。私をこれほどに成長させてくれたのは彼女だ。そんな彼女に私は「ありがとう」の言葉を返したい。

